

# 登録速報（適用拡大）

農薬名：Cs. オリゼリディア箱粒剤

登録番号：第24508号

適用拡大登録日：2022年4月6日

## 適用拡大登録内容

作物名「稲（箱育苗）」の使用量に「高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50～100g）」を追加する。

### 【変更後】（変更する作物のみ抜粋）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネドロオイムシ イネミスゾウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの 処理は1回以 内、本田では2 回以内)	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)
		高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱（30×60× 3cm、使用土壌約5L） 1箱当り50～100g)					

※当該変更に伴い、農薬登録申請書第7項を以下の通りに変更する。

## 7. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- (1) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ① 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ② 移植後は湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (2) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ① 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としのち、十分灌水すること。
  - ② 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - ③ 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - ④ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - ⑤ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ⑥ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化・褐点を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - ⑦ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - ⑧ 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (3) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (4) 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。